

# 住民運動から NPO 設立までの過程分析と活動内容に関する研究

## 広島県鞆の浦の特定非営利活動法人(NPO法人)を一例として

日本大学 学生会員 鶴岡 智史  
日本大学 正会員 伊東 孝

### 1. はじめに

1992年、主婦7人により住民団体「鞆の浦海の子」(以下「海の子」)が発足した。鞆の浦の環境をどのように守っていくか、鞆の価値を世に広げていくためにはどうすべきかについてさまざまな活動をおこなった。11年後の2003年、「特定非営利活動法人鞆まちづくり工房」(以下「鞆まちづくり工房」)を設立し、活動は今に至る。「海の子」から、何故どのようにして「鞆まちづくり工房」に至るのか、過程分析や活動内容について調査研究する。

### 2. 鞆の浦の概要

鞆の浦は、広島県福山市にある瀬戸内海に面した歴史的な港である。中世から「潮待ち・風待ちの港」として、また江戸時代には北前船や朝鮮通信使の寄港地として知られる。ここには江戸時代の港湾施設群が現存し、一部改修されて漁業施設として利用されている。港湾施設群とは、常夜燈、雁木、波止、焚場、船番所の5点セットである。

### 3. 「海の子」発足の経緯と背景(表-1)

1992年、「海の子」が発足、はじめは主婦7人の活動で、目的は、子供たちの環境をどう守るかにあった。その後、1983年に発表された鞆港の埋立架橋計画が顕在化すると、初期のメンバーは埋立架橋反対派とみなされるのを嫌い、1人を除いて全員活動をやめた。だが、鞆を思う新たな6人が加わり、埋立架橋計画による景観破壊から鞆の浦をどのように守るかという活動をはじめた。毎週1回、7人を中心に勉強会を開き、何ができるか、何をすべきかと考えた。そして、鞆の浦の魅力のアピールするため、さまざまなイベントをおこなった。

初期メンバーでただ1人残ったのは、「海の子」と後の「鞆まちづくり工房」代表の松居秀子(敬称略)であった。

松居の活動の中心は、鞆の浦でただひとつの喫茶店「友光軒」であった。この「友光軒」も、もとの店が廃業することを聞いた地元主婦によって喫茶店としてよみがえったものである(1991年)。「友光軒」は、地元の人と各地から訪れる人がまちづくりを語り合う交流の場になったが、残念ながら2003年家主の希望により店を閉じた。この「友光軒」での語りいと食事は、多くの人をひきつけた。

また「海の子」発足時期は、同じ目的をもった住民運動団体「鞆の自然と環境を守る会」や「歴史的港湾鞆港を保存する会」が発足している。鞆の浦の住民運動のさきがけであった「鞆を愛する会」(1987年発足)は、埋立架橋計画撤回の意見書を県・市に提出、埋立架橋計画に注目が集まった時期であった。

### 4. 「海の子」の活動の経緯と内容(表-1)

#### 4-1 活動経緯

「海の子」は「鞆を愛する会」などとともに、鞆の魅力をアピールするイベントをおこなってきた。

1997年、当時「海の子」の代表であった松居が、第20回全国町並みゼミ(村上大会)で鞆の浦の町並み保存の動きと埋立架橋問題について報告した。

全国町並みゼミとは住民・市民運動団体の集まりで、町並み保存運動を広めるため昭和53年から年一度開催され、保存運動のある場所でゼミを開催、参加各地の運動事例を聞き、学び、意見・情報交換する場である。

#### 4-2 活動内容

「海の子」は、発足当時は小さなイベントをおこなっていたが、全国町並みゼミ参加後の1998年、さまざまな分野の専門家をまねいて、第1回鞆の浦シンポジウムを開催した。シンポジウムは4回開催された。2002年には、鞆の浦で全国町並みゼミを開催するまでに成長した。全国町並みゼミは、シンポジウムの総まとめでもあった。

また鞆の浦の歴史的価値を知ってもらうため大学の研究室を鞆へ迎え、調査をおこなった。わたしたち研究室は、1998年から3年間にわたって「海の子」のメンバーとともに港湾施設群の調査をおこない、その後はまちづくり運動を支援している。2000年からは東京大学大学院の有志が、鞆の浦で「海の子」のメンバーとともに町並み調査をおこなっている。

### 5. NPO設立の経緯

2003年埋立架橋計画が凍結になり、「海の子」の活動目的は終わった。「海の子」は任意団体であり、代表の松居が手を引いてしまえば活動は終わってしまう。しかし、いままでしてきた活動の知識や経験を無駄にしないため、「鞆まちづくり工房」を設立、ゼロからの出発をした。「鞆まちづくり工房」には、2つの大きな目的がある。1つ

キーワード：鞆の浦 NPO法人 住民運動

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 電話047-469-5572 FAX047-469-2581

は、いままでの経験を次の世代へ継承するための人材育成、もう1つは、外部から鞆へ来る人たちのための受け皿づくりである。

設立に際しては、「友光軒」で鞆の浦のとりこになった某有名NPO代表0氏などの後押しも影響している。

現在、顧問は17名、理事14名、会員約50名が所属している。NPOとしては顧問の数が多く、土木、建築、歴史、社会学、法学、船舶などさまざまな研究者や専門家がかわる。これほど多くの専門家が鞆の浦にかかわっているのは、代表の松居の人柄といえる部分も大きい。

## 6. 「鞆まちづくり工房」の活動

「海の子」までは、町並み保存の活動をおこなっていたが、今後は“まちづくり”が大きな目標になった。「鞆まちづくり工房」は主な事業内容として9つかかっている。

- ・鞆地区、瀬戸内海地域の歴史的資源を活用した町づくりの提案
- ・歴史的環境の啓発・「鞆の浦シンポジウム」の開催、地図づくり
- ・空家などを活用した住まい・店舗の創出、空き家バンクの促進事業
- ・瀬戸内港町ネットワークの推進事業
- ・環境教育に係る調査研究および普及啓発
- ・子供を対象とした町並み調査研究、鞆港内の生物調査および啓発活動
- ・高齢者の各種地域活動への扶助（社会参加の手助け）
- ・高齢者のホームレスキュー相談室
- ・地元製品の販売

ひとつの例をあげると、子供を対象とした町並み調査研究の鞆学校があげられる。鞆学校とは、まちを教科書とみなし、体感しながらまちから学び・遊ぶ。今まで当たり前に見て、過ごしていた自分たちのまちをちがう角度で見直してみようと、毎回いろいろなテーマをかかげ、鞆港湾内の調査をおこなっている。

## 7. 鞆の浦の最近の動き

2003年埋立架橋計画が凍結されたが、昨年12月から埋立架橋計画が再開する可能性が強まった。公有水面埋立法のなかには、排水権同意の取得が明記されている。鞆の浦の場合、権利者20件中17件しか同意が取れていない。福山市は、権利者の100%同意が無いまま埋立が可能かどうか、県や国へ見解を求めている。現在までに、

表 - 1 住民運動の歴史

時期	年	月/日	まちづくりグループの活動
問題発生	1983	10	県が、福山港地方港湾審議会の答申を受け、鞆港湾計画（以下、計画）を策定
住民運動団体発足期	1987	2/1	マンガ『出逢いの海・鞆の浦』が出版
		3/23	「鞆を愛する会」結成
	4/24	鞆製鋼合資会社の建物保存を陳情（保存決定）	
	1988	3	いろは丸引き揚げ予備調査開始（愛する会）
住民運動開始期	1989（H1）	7	「いろは丸展示館」開館
		8	「海の子」、 <b>「鞆の自然と環境を守る会」</b> 、 <b>「歴史的港湾鞆港を保存する会」</b> 発足
	1992	12	「愛する会」、計画撤回を求める提言書を県・市に提出
住民運動開始期	1993	7	「鞆再見展」1ヶ月開催
		10	住民3グループが、6821人の計画反対署名と学者や文化人ら約500人分の署名を添えて市に提出
	1995	6	「海からのメッセージ」シンポジウム（愛する会）ゲスト：モノコ海洋博物館副館長
	1997	5	鞆の自然と環境を守る会が、県に計画の白紙撤回を求める要望書を提出
専門家を招いての調査活性化期	1997	2	全国町並み保存連盟に「鞆の浦海の子」加入
		7	第20回全国町並みゼミ村上大会
		10	第1回鞆の浦シンポジウム
		10	第1回鞆の浦歴史探訪の旅
	2000	8	第21回全国町並みゼミ東京大会
		9	日本大学による、第1回鞆港湾施設調査
		9	第22回全国町並みゼミ臼杵大会
		12	第2回鞆の浦歴史探訪の旅
		3	協働会館シンポジウムに参加
		7	第2回鞆の浦シンポジウム
		7	日本環境会議事務局、運輸省、環境省、ナショナルトラストほかへ訪問
8	地元福山での計画反対の署名活動開始		
10	周防灘シンポジウムに参加		
2002	8	日本大学による、第2回鞆港湾施設・焚場調査	
	10	「鞆の浦を世界遺産に」の街頭署名を福山駅前で行い実施・記者発表	
	10	ローズフェスタ2000参加	
	12	運輸省、大蔵省、大学ほかへ訪問	
	1/2	「T-HOUSE」開催（2日間）	
	9	第3回鞆の浦歴史探訪の旅	
	10/11	エコフェスタ2001に参加	
まちへの移り運動	2003	1/23	第1回鞆学校（以後、2002年8月まで毎月開催）
		4/20	第24回全国町並みゼミ小樽大会
	6/18	World Monument Fund（世界文化遺産財団、以下WMF）のWorld Monument Watch に選定決定	
	6/18	市役所記者クラブにて記者会見	
			ローズフェスタ2001参加
			第4回歴史探訪の旅
			第4回鞆の浦シンポジウム
			あったらもんシンポジウム（加賀）参加
			太田家住宅開館
			真鶴シンポジウム参加
			WMFのスタッフが鞆を視察
			全国町並みゼミ鞆の浦大会
			NPO鞆まちづくり工房設立総会
			第14回鞆学校（情報交差点四つ角の再生に取り組む）
			「NPO鞆まちづくり工房」が県に認証される

出典：鞆まちづくり工房（一部抜粋、加筆）

100%同意なしに埋立をおこなわれた事例はないが、県の見解では「100%の同意が無くても事業ができる」とされている。

## 8. おわりに

最初は主婦7人による小さな活動であったが、12年という歳月の経過とともに形と内容が変わり、大きく成長、確かな活動になった。今回の調査研究によって、紙面には紹介できない内容とともに、まちづくり運動の大変さを知ることができた。また、地元を愛する住民の強い力が集まり、小さな一歩を踏み出すことができれば、まちを守ることができることもわかる。

景観法ができ、公共事業のあり方が見直されている中で、一度図面に引いてしまった線を実現するため、行政側の整合性の無い準備は今の時代にあっているのだろうか。今回が事業撤回の最後のチャンスである。

最後に、長時間にわたるヒアリングを受けていただいた「鞆まちづくり工房」代表松居秀子氏に感謝します。